

教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

おひさまきらきら えがおいっぱい なんざんようちえん

港区立南山幼稚園 NANZAN Kindergarten



2月園だより

〒106-0046
港区元麻布 3-8-15
平成31年1月31日

【校庭で思いきり遊ぶ 子どもたち】

凧揚げ ↓



縄跳び ↓



【節分のお面作り】



はさみやのり、クレパスなどを遊びの中で繰り返し使いながら慣れていきます。

風をよむ

園長 こくぼ とくこ 小久保 篤子

校庭で子どもたちが凧揚げをしています。幼児がする凧揚げですから、自分の作った画用紙の凧に凧糸を張り、走りながら上げる凧です。ところが、ある風の強い日のことです。何日か続けて凧揚げをしていた子どもたちの足が止まりました。自分の凧を見つめ「先生、見て。凧が飛んでいる！」。強い風を受けて上がる凧の手応えを確かに感じたのです。子どもたちは、寒さも気にせず、風の力やその不思議さを面白がっていました。

この日は、普段よりも強風が吹いたので、凧という物を通じて、見えない「風の力」を目で見て理解したのだと思います。

幼稚園は、子どもたちが物や人と関わりながら自分の世界を広げていく場です。教師は意図をもちながら保育を計画していますが、教師の一方的な計画だけでは、子どもたちの気持ちや心にずれが生じます。幼稚園生活の主役は子どもですので、子どもたちと一緒に創り出していく生活となるように、子どもの気持ちや興味・関心をとらえてタイミングよく、物や人、自然現象などの様々な出合いの瞬間を逃さずに経験できるようにしていきたいと考えます。

3学期は、各学年のこれまでの遊びや生活の中での積み重ねが花ひらくときです。5歳児にとっては、「幼児期の終わり」の姿です。幼稚園教育要領に示される「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）と照らし合わせ、子どもたちの3年間のまとめをしたいと思います。

今、5歳児がこま回しや縄跳びに挑戦しています。技を獲得するまでには「できるようになりたい」という本人の強い意思と繰り返しの練習が必要ですし、教師以上に同年代の友達の存在がとても影響します。残された日数の中ではありますが、あきらめずに粘り強く取り組む中で、「できた！」という達成感や、友達と一緒に頑張ったという充実感をたくさん味わってほしいと思っています。

